＜参考資料＞

○猿ヶ石北部土地改良区

昭和２７年４月猿ヶ石地区農林省直轄調査地区として採択され、同年６月に碑和東部総合開発土地改良事業期成同盟会を設立し、昭和２８年国営農業水利事業により、基幹的農業施設である取水塔・幹線水路工事着工、昭和３０年１０月、猿ヶ石川土地改良区申請人会議が開催され、昭和３２年３月に猿ヶ石川土地改良区が設立されたが、同年８月名称を猿ヶ石北部土地改良区に変更した。更に昭和３３年に国の直轄事業として国営開拓建設事業が行われ、昭和４４年に完成いたしました。

猿ヶ石川地区の開拓を推進するための中心的役割を担うことを目的に設立された当土地改良区は、旧東和町を中心とした２市２町に跨る受益面積２，７００ｈａ、組合員２，２４０人（当時の数字）を擁す県内有数の土地改良区として現在に至っております。

○猿ヶ石南部土地改良区

猿ヶ石南部土地改良区は、岩手県の中南部に位置し奥州市・北上市・花巻市の３市にまたがる４，５００ｈａの水田や畑を受益とし、水田農業を行う上で欠かせない「水」を水田に送る用水路の整備や管理はもとより、農業を効率よく行うための水田の整備などの土地改良事業や維持管理を行っている農業者の組織です。

土地改良区の役割は、農業施設の維持管理を通して国民全体の財産ともいえる農地や農業用水を守り、豊かな地域資源を次の世代に受け継ぐ役割を担っている組織です。

○田瀬ダム

田瀬ダムは国直轄第１号のダムとして昭和１６年に着工し、戦時中の中断を経て昭和２９年１０月に完成したダムで半世紀にわたり活躍しています。

ダムの目的は、洪水調節、発電、かんがい用水の供給で、田瀬ダムからのかんがい取水としては、猿ヶ石北部土地改良区や猿ヶ石南部土地改良区の水田など、全体で約９，４４０ha(新規開田含む)に及ぶ広大な耕地に対して年間４７，１００千m3の水を供給しています。

また、田瀬ダムを統管している北上川ダム統合管理事務所では、他の３ダム（御所ダム、湯田ダム、石淵ダム）でもかんがい用水を供給しており、岩手県内の水田面積(１００，４５１ha)のうち約２３％(２３，４４６ha)の水田に供給しております。



田瀬ダムの役割・効果



洪水調節

台風などによって上流部に雨が降り注ぐと、その雨は川に集まってきます。ダムはその水の一部分を貯め、下流へ流れる水の量を少なくする調節を行います。その結果、川の水位の上昇が抑えられ、また洪水が起きた場合でも、その継続時間を短縮させることが可能になります。田瀬ダムは他の北上川5大ダムとともに洪水調節を行い、洪水の被害軽減を行っています。

発　電

田瀬ダムから取水された水は、電源開発㈱東和発電所にも送られています。岩手県下第3位の発電規模を誇り、年間112,000千ｋＷの電力量をつくり出しています。

かんがい

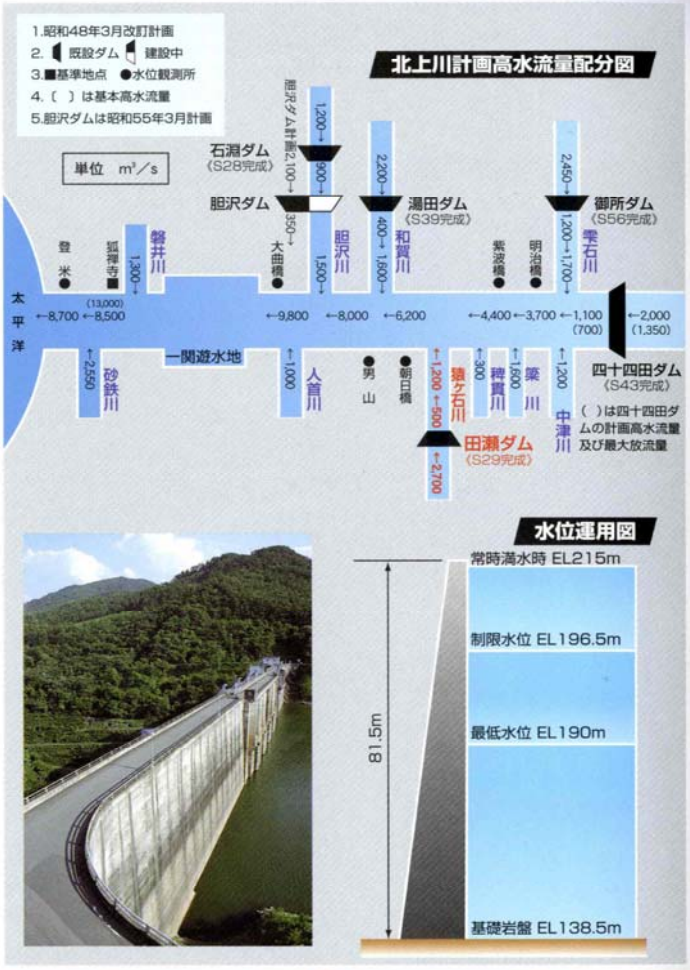
北上川左岸の江刺・稗和東部地区（花巻市・北上市・江刺市・東和町・石鳥谷町）にかんがい用水を供給。9,440.96ｈａ（新規開田含む）に及ぶ広大な耕地に供給するため、ダムから47,100千㎥の水を取水。農業経営の安定と合理化を計っています。

■最大取水量　9.0㎥/s（江刺5.5㎥/s　稗和3.5㎥/s）
■平均取水量　5.0㎥/s（江刺3.0㎥/s　稗和2.0㎥/s）

湖面利用

昭和63年度からレイクリゾート事業として、田瀬湖畔の5箇所（ダムサイト地区、横峰地区、向田瀬地区、白土地区、柏木平地区）に水辺空間を整備しています。

平成15年度のダム湖利用実態調査では、約8万人の方が田瀬湖周辺を利用している結果となっています。





江刺市の田園風景